中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

令和７年２月１８日発行　通算第８７号

旭川上川大会を終えて

旭川上川大会実行委員長　米　津　理　臣（北海道美瑛町立美瑛東小学校長）

さわやかな秋晴れの下開催されました令和６年度全日本音楽教育研究会全国大会旭川上川大会は、600有余名の参加を得て、多くの成果を挙げ、成功裏に終わることができました。令和６年10月10日（木）と11日（金）は、文字通り「とっても、とってもいい日」となりましたことに深く感謝申し上げます。

本大会は、大会主題を「音とつながる 心がつながる 学びがつながる」と設定し、公開授業と記念演奏の中で、子どもたちの姿の中に表れることを目指して取り組んでまいりました。

１日目の公開授業につきましては、幼稚園３本、小学校５本、中学校４本、高等学校２本の授業を公開しました。どの授業も、子どもたちの音楽活動を楽しみ、学びを深めていく素敵な姿が見られ、参加された先生方の明日からの授業に生かすことのできる実践になっていたのではないかと思っております。

授業後の研究協議におきましては、全国各地からお集まりいただいた皆様から多くのご意見をいただくとともに、助言者の皆様から、今後の授業改善につながる貴重なご示唆をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

また、文部科学省初等中等教育局視学官の志民一成様と教育課程課調査官の河合紳和様より全体講評をいただきました。お二人からは、本大会主題と全ての授業について、高い評価と貴重なご助言をいただき、今後の旭川、上川、そして、北海道の音楽教育の指針となりましたことを深く感謝いたします。

２日目の記念講演では、作曲家、合唱指導者の松下　耕様から、これまでの人生を振り返り、今の子どもたちとどのような合唱を共有しているのかについて、心にしみるお話をいただきました。

大会フィナーレとなる記念演奏は、「ここからはじまる・・・」をテーマとして、旭川、上川の幼・小・中・高校生が、約１時間ノンストップの演奏を繰り広げました。スムーズな演出と舞台転換、そして、何より子どもたちの心のこもった演奏は、参加者の皆様と感動を共有いただけたものと思っております。

本大会は、授業だけではなく、記念演奏や運営面全てにおいて、旭川、上川が協力して、前年度の富山大会の成果と財産を受け継ぐとともに、令和の音楽教育の礎となり、さらに充実・発展したものとなるよう、総力を挙げて取り組んだ大会です。

こうして大会を無事終了できましたのは、本大会の準備から運営まで携わっていただいた全ての皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

結びに、本大会の開催に当たり、温かなご指導、ご助言を賜りました文部科学省、文化庁をはじめ、北海道教育委員会、関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げ、旭川上川大会を終えてのごあいさつとさせていただきます。

Contents

Ｐ１　旭川上川大会を終えて　大会実行委員長長　米津　理臣
Ｐ２　佐賀大会に向けて　佐賀県支部長　末次　知子
Ｐ３～５　旭川上川大会講評
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官　河合　紳和 氏
Ｐ５～７　旭川上川大会《中学校部会》公開授業レポート
Ｐ８　旭川上川大会 記念講演・記念演奏　Information

発　行
全日本音楽教育研究会 中学校部会

東京都国分寺市西元町
３丁目１０－７
国分寺市立第四中学校内
部会長　野口　大介

令和7年度 全日本音楽教育研究会全国大会佐賀大会(総合大会)

育てよう　音楽と豊かに関わる子ども

～音楽科及び芸術科音楽における「主体的･対話的で深い学び」の視点からの授業改善と
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

佐賀県支部長　　末次　知子（佐賀市立城北中学校　校長）

１　大会研究主題と研究の概要について

令和７年 10 月 23 日（木）・24 日（金）に開催します 全日本音楽教育研究会全国大会佐賀大会 に向けて、上記の大会研究主題を掲げ、全日音研　第２期（令和６年度～令和 10 年度）の継続研究の３視点項目も踏まえつつ、授業研究を進めています。本研究主題「育てよう　音楽と豊かに関わる子ども」は、学習指導要領（平成 29 年告示）の音楽科の目標に示されている「生活や社会の中の音や音楽【、音楽文化】と豊かに関わる資質・能力」（【　】内は中学校の目標のみ）を受けています。**「音楽と豊かに関わる子ども」**を、**「生涯にわたって、音や音楽、音楽文化と主体的に関わり、心豊かな生活を送ることができることや、様々な音楽との関わりを通して、生活や社会の中の音楽を意識し、音楽や音楽文化を継承、発展、創造することができる子ども」**と定義し、義務教育９か年及び高等学校における音楽科教育の中で、このようなことの素地を子どもに育んでいくための研究に取り組んでいるところです。そのための手立てとしては、副主題にありますように、「音楽科における『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善と『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を通して」行うこととし、現行学習指導要領で求められていることを着実に授業に落とし込んでいくことで、生徒にとって意味のある授業、身に付けさせたい力が身に付く授業となるように不断の見直しを図り、授業改善に取り組んでいるところです。

具体的には、① 音楽科で育む資質・能力を明確にすること、②「主体的・対話的で深い学び」の視点から音楽科の授業の質的改善を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ること、③　音楽科における学習評価の充実を図ること　の３つを柱として取り組んでいますが、これらは、全ての教師や学校が日々行うべきことであり、本研究大会における授業づくりの根幹を成すものであると考えています。決して奇を衒うことなく、また、授業者や授業校だけでなく、この研究大会に向けて取り組む多くの学校や教師にとっても意味ある大会となるように日々取り組んでおり、その成果としての授業を 10 月 23 日（木）は見ていただければと思っています。

２　大会の概要とコンセプト

本大会は、令和７年 10 月 23 日（木）、24 日（金）に佐賀市文化会館を全体会場とし、小学校３校、中学校２校、高校１校で公開授業と授業研究会を行います。併せて、佐賀市文化会館では、23 日に大学部会の研究発表を行います。１日目の午前は公開授業と授業研究会を行います。中学校部会は、佐賀市立金泉中学校で歌唱、器楽の２授業、佐賀市立城北中学校で創作、鑑賞の２授業を公開します。いずれの会場でも全ての参加者が２授業を参観できるように時間を設定し、２授業を合わせて 90 分の授業研究会を行うようにしています。１日目の午後は佐賀市文化会館及び周辺会場にてワークショップ・レクチャーコンサートを行います。２日目は佐賀市文化会館で全体会を行います。研究概要の発表後に、文部科学省の志民一成視学官と河合紳和教科調査官から指導講評をいただきます。その後、ヴァイオリニストの古澤　巌（ふるさわ　いわお）氏による記念演奏を行うこととしています。

本大会は、これからの「持続可能な全国大会」の姿の１つの提案であり、**「授業研究に特化した大会」**として取り組んできました。したがって、１日目夜のレセプションは開催いたしません。また、２日目の児童生徒による研究演奏なども予定していません。教師の本分である「授業」について、参加していただく全国の先生方としっかり考えることができる大会になればと思っています。本県では長年、オリジナルの「佐賀県版音楽学習ノート」を作成しています。令和７年度の教科書改訂に合わせて、ノートも大幅に改訂しました。これらについても研究の一環として、大会に御参加いただいた先生方にはぜひ見ていただきたいと考えています。また、これまで取り組んできた研究授業については、学習指導案、ワークシート等を CD-rom にて編集可能な形で配付することも考えています。大会の２日間はもちろんですが、全国大会佐賀大会に向けてのこれまでの「研究のあゆみ」についても、ご参加いただきました先生方と共有できるように努めていきます。ぜひ、佐賀で共に学びましょう。

佐賀県音研のホームページを開設しています。本大会についても紹介していますので、ご覧ください。アドレスは　https://saga-ken-on-ken.jimdosite.com/　です。左の二次元バーコードからも見ることができます。

◆講評◆

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官
文化庁 参事官（芸術文化担当）付 教科調査官
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官　　河合　紳和 氏
日 時 ： 令和６年１０月１０日（木）　１５：２０～
会 場 ： 旭川市民文化会館

中学校部会では、「広げよう　音楽との関わり方　深めよう　音楽への思いや音楽表現」の研究主題のもと、学習活動や音楽活動の支えとなる様々なつながりを意識し、音楽と豊かに関わり、音楽を表現したり、音楽のよさや美しさを発見したりしていく力を育てる授業づくりを目指し、研究を進めてこられました。

本日午前中、中学校部会では「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の２領域４分野の計４つの公開授業及び研究協議が行われました。個々の授業につきましては、各研究協議の中で熱心な議論が行われ、各助言者の先生方より的確かつ温かいご助言をいただいたことと思いますので、私の方からは、ごくわずかな時間ではありましたが、私が拝見した場面について感想を述べさせていただくとともに、各授業に関連して、ご参観の先生方が今日の授業を参考に、ご自身の実践として取り入れる際にご留意いただきたいこと等についてお話しさせていただきます。

旭川市立永山南中学校・木原先生による第１学年「ソーラン節の魅力を味わいながら歌おう」の授業では、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「音色」と「旋律」を設定し、ソーラン節をどのように歌うかについてのイメージをもち、節回しやコブシなどを生かした歌唱表現を創意工夫する題材を構想されました。

私が拝見したのは、ソーラン節の後半部分の歌い方について、グループで意見を出し合いながら、節回しやコブシの入れ方を考える場面でした。木原先生は、各グループを回りながら、生徒と一緒に歌って試し、思いや意図を確認するとともに、生徒自身が気付いていなかったり意識していなかったりする工夫点を見付け、価値付けをしていました。

本授業では、生徒が実際に声に出して歌い試しながら、歌い方の工夫を考えていたところがとても素敵だと感じました。音楽表現を創意工夫する場面では、とかく「ワークシートに書いてみよう」とか「ペアやグループで話し合ってみよう」というように、即座に言語活動に導いてしまいがちですが、歌唱でしたら実際に声に出して歌いながら、器楽でしたら実際に音に出して演奏しながら、創作でしたら実際に音を連ねてみたり重ねてみたりしながら、試行錯誤を繰り返す活動を通して工夫の仕方を見いだしていくことが大切です。本時の授業でも、生徒は自分たちで考えた節回しやコブシを実際に歌って試しながら「なんか歌いにくいね」「ちょっと不自然だよね」「コブシ多すぎない？」などと言いながら、表現の工夫について軌道修正する場面が見られました。

また、図形楽譜の活用も、生徒の学習活動を円滑にしていました。マグネットや付箋の活用も、生徒の試行錯誤を柔軟かつ活発にする効果的な働きをしていました。

北海道教育大学附属旭川中学校・平澤先生による第２学年「交響曲第５番の魅力を追究しよう」の授業では、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「構成」を設定し、ベートーヴェンの交響曲第５番の各楽章の音楽の特徴を捉え、作曲家が４つの楽章をどのように配置したか、また、どのように接続したかに着目しながら交響曲の魅力について考え、そのよさや美しさを味わって聴く題材を構想されました。

私が拝見したのは、授業の冒頭で、前時までに捉えた各楽章の音楽の特徴を振り返り、本時の学習では、第３楽章から第４楽章へと切れ目なく突入していく部分の効果やねらいを考える場面でした。平澤先生は、生徒から知覚したことや感受したことを丁寧に拾い上げるとともに、何度もこの部分の音楽を再生して「音」で確認させていました。鑑賞の授業では、曲全体の特徴を捉えたりよさや美しさを味わって聴いたりすることも大切ですが、このように、特定の部分を取り出して分析的に繰り返し深く聴く活動を大切にしたいですね。

本題材では、交響曲第５番という作品そのもののよさや美しさを味わうだけでなく、複数楽章からなる「交響曲」というジャンルの音楽の魅力について考えるという大きな問いを設定していました。この作品の全楽章を教材とした鑑賞の実践においては、ともすると、いわゆる「運命の動機」と呼ばれる４つの音によるモチーフが、各楽章で形や雰囲気を変えて登場するということの解説に留まってしまいがちです。確かにそのことは、この作品の魅力のひとつではありますが、このことだけを捉えた学習では「教材を学ぶ学習」で終始してしまいます。この作品の鑑賞を通して考えたり捉えたりしたことが、将来、交響

曲のような規模の大きな作品のよさや美しさを味わって聴く際に生かすことのできる資質・能力として生徒が身に付けることが重要だと考えます。

下川町立下川中学校・熊澤先生による第２学年「反復や変化を生かしてリズム・パターンをつくろう」の授業では、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「旋律」を設定し、アルトリコーダーを用いた器楽の授業で学習した「オーラ・リー」にふさわしいリズムを、デジタルコンテンツを活用しながら創作する題材を構想されました。

私が拝見したのは、授業の終盤で、生徒がつくったリズムをペアで共有する場面でした。本題材で熊澤先生は、八分音符が８つ並ぶ基本リズムをもとに、２つの八分音符を繋げて四分音符にすることでリズムを変化させるという方法を用い、誰もが困難を感じることなく複数のリズム・パターンをつくり、その雰囲気の変化を容易に試すことができるよう指導を工夫されていました。また、リコーダーを用いた器楽の授業で学習した曲を再活用した点も、生徒が音楽についてのイメージをもちやすくするなど、学習活動をより円滑にしていたと思います。ペアワークの中では、生徒が自分の「思いや意図」を「自分の言葉」で説明している姿が見られました。

一方で「オーラ・リーにふさわしいリズム」の「ふさわしい」ということについて、「旋律」をよりどころとしながら思考・判断する場面をより丁寧に設定する必要があったように思います。授業の中で「旋律にふさわしい」ということと、「音楽としてまとまりのある構成」ということの２つの視点が、生徒の中で整理できていないように見取れました。すなわち、旋律の特徴を生かしながら旋律と相性のよいリズムをつくればいいのか、反復や変化等を生かしながら４小節ごとのフレーズ感を生かしたリズムをつくればいいのか、（またその両方なのか…）、課題を明確にするとともに、これらを指導する場面を分けて設定することが考えられるかと思います。

剣淵町立剣淵中学校・大地先生による第１学年「アルトリコーダーの演奏に親しもう」の授業では、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「音色」と「旋律」を設定し、音色やアーティキュレーションを様々に試しながら、「夏の思い出」と「喜びの歌」の表現を工夫して演奏する題材を構想されました。

私が拝見したのは、生徒がグループで様々に息の入れ方やタンギングの仕方を試したり意見を交わしたりしながら「喜びの歌」に合った音色や音のつなげ方を探る活動の場面でした。タンギングの仕方には様々な方法があり、音の質感や音域などによって異なることを、生徒が実感を伴って理解していたことが生徒のグループ活動を支えていたと思います。大地先生はグループを回りながら、生徒の思いや意図を確認し、自ら範奏を聴かせるなどして、音色や響きへのより具体的なアプローチを促していました。

近年、小学校でリコーダーを学習しない学校が増えていると聞きます。コロナ禍で一時期、吹奏する楽器を演奏できなかったこともこれに影響しているでしょう。そのため、中学生にはタンギングの技能が身に付いていない生徒が多く見られるようになりました。本授業のように、音色やアーティキュレーションに着目し、音の質感に迫る学習では、息を均等に出すことや適切にタンギングをする技能を、全員が確実に身に付けていることが重要です。ほとんどの生徒がアルトリコーダーを初めて演奏する、また、その中にはリコーダー自体が初めてという生徒もいますので、表現を創意工夫する学習の前に、その基礎となる技能をしっかりと習得させる必要があるでしょう。

また、本題材は６時間という大きな枠で構想されていますが、「夏の思い出」で習得した「知識」に関する資質・能力を「喜びの歌」の器楽表現の創意工夫にどのように接続させるかについては、その関係性を吟味し整理する必要があろうかと思います。場合によっては「夏の思い出」をそのまま使用することも考えられたかと思います。

本大会では、多くの先生方が公開保育や公開授業を通して、幼稚園教育要領や小・中・高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえた指導や評価のあり方について、様々な提案やご提案くださいました。私は毎年、授業者の先生方が緊張しながらも堂々と、自信に満ちて授業をされておられることを頼もしく感じながら公開授業を拝見させていただいております。公開授業の授業者と決まって以来、題材構想、教材の選択、学習指導案の作成、ワークシートや授業資料等の作成など、ご多忙なお時間をやりくりして、考え、悩み、苦しみ、試行錯誤を繰り返しながら、今日のこの日に向けて授業づくりに取り組まれてきたことと思います。その過程では、厳しい意見や助言に、落ち込んだり、凹んだりすることもあったのではないかと想像いたします。それらを謙虚に受け止め、子供たちの資質・能力を育む授業づくりに、真剣に、真摯に打ち込まれてこられたこと、それが、先生方の堂々とした、自信に満ちた姿につながっていたのだと確信いたします。

本日、この会場には、全国各地から、実践者として、指導的な立場として、また研究者として、音楽教育に真摯に、また情熱をもって携わっておられる多くの先生方が一堂に会しています。本大会の成果を、皆様お一人お一人が、ご自身の立場に立って捉え、明日からの音楽教育に生かしていただきますことをご期待いたします。

最後になりましたが、本日の公開保育・公開授業に当たり、様々にご理解ご協力いただきました、関係園の園長先生、関係学校の校長先生はじめ教職員の皆様、保護者の皆様、そして何よりも、慣れない環境の中、日ごろの学習の成果を発揮し、生き生きと音楽活動を楽しむ姿を見せてくれた幼児児童生徒の皆さんに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、重ねてのお礼となりますが、これまで準備を進めてこられた大会実行委員長・米津理臣先生をはじめ、北海道旭川上川地区の全ての実行委員の皆様、授業者の先生方に心より敬意を表するとともに、厚くお礼申し上げます。大会第１日のご成功をお祝い申し上げますとともに、ご参会の皆様の一層のご活躍をご祈念申し上げ、講評とさせていただきます。

明日の第２日は全体会が行われ、作曲家の松下耕氏による記念講演「子供と合唱するということ」、そして「ここからはじまる…」をテーマとした記念演奏が行われます。明日も充実した一日となることを心より期待しております。また、来年は是非「佐賀」の地で再会し、音楽科教育・芸術科音楽教育について熱く語り会いましょう！ご清聴いただきありがとうございました。

令和６年度　全日本音楽教育研究会全国大会　旭川上川大会　中学校部会

◆公開授業レポート◆

日 時 ： 令和６年１０月１０日（木）

会 場 ： 旭川市大雪クリスタルホール　木楽輪

中学校部会研究主題

「広げよう 音楽との関わり方 深めよう 音楽への思いや音楽表現」

【表現・歌唱】第１学年

題材名「ソーラン節の魅力を味わおう」　指導者　旭川市立永山南中学校　教諭　木原 晶子

はつらつとした明るいソーラン節の歌声から授業が始まった。思考判断の拠り所は、「音色」と「旋律」。本格的な手もみ付きの手拍子を全員で大きく打ちながら、生徒全員が笑顔で生き生きと歌っていた。木原先生の歌声は、まるで民謡歌手のように滑らかで声に伸びがあり、生徒をグイグイと引っ張っていた。北海道民謡の一つ「ソーラン節」の音楽の特徴は、曲種に応じた発声の地声で歌うこと、囃子詞を含む歌詞であること、力強い旋律であること、囃子詞との掛け合いがあること、コブシや節回しなどがたくさん使われていることなど多くの要素がある。授業では、多くの知覚・感受が可能。授業は、図形楽譜を用いながら進められており、本時は全３時間のうちの第２時の授業。思いや意図をどのように表現につなげていくのかという学習内容であった。グループ毎に自分たちの「ソーラン節」を協働で歌い、試行錯誤しながら自分たちの思いや意図をいかに盛り込んでいくのか。その中で、前時にクラス全体で話し合って決めたという「ソーラン節」に込められた気持ちの５つ（①会話　②波　③力強さ　④やる気　⑤応援）の中から特に自分たちのグループで、どの項目を意識して歌いたいのかを選ぶ。そして図形楽譜を見ながら、節回しやコブシなど、どの節のどの歌詞に取り入れて、声をいかに揺らしたりするのか、どうすると自分たちのイメージに合うのか、どこを強く発音して気持ちを込めるといいのか、何度もグループで歌い試しながら相談して表現を創意工夫していった。木原先生は、常に生徒と一緒に歌って試し、生徒一人一人にねばり強く創意工夫させながら価値づけをしていた。言語活動だけで終わるのではなく、実際に声を出してみながら自分たちで歌い試し、楽しみながら歌唱表現させていた。木原先生の熱量と生徒の「ソーラン節」への思いが相まって、よりよいものへと軌道修正できていたように感じた。グループ学習では、ニシンのマグネットや付箋、図形楽譜を活用し、生きた生徒の声がたくさん飛び出して、効果的に協働的作業を行った素晴らしい授業となった。

研究協議会では、先生方が３～４人のグループに分かれて授業の振り返りを行った。各グループからは、北海道民謡の「ソーラン節」をどのように学習として取り入れていくのかという点について質問が多く出された。最初の授業で「歌の中にどんな気持ちを込めたいのか」ということを話し合って決め、その気持ちを達成するためには、どのような音楽表現を工夫していくのかということが要になっていた。このような学習意図を掲げて授業構築されていたことが興味深かった。

【鑑賞】第２学年

題材名「交響曲第５番の魅力を追究しよう」　指導者　北海道教育大学附属旭川中学校　教諭　平澤 香織

「交響曲第５番」全曲を４時間扱いで鑑賞する授業の３時間目であった。本時では、楽章のつながりに着目し、その関わり合いが生み出す作品の魅力について考えを深めた。第３楽章から第４楽章が切れ目なく演奏されていることに対し、どのような工夫がなされているか、及びその効果について個人で考え、主な意見を全体で共有。また、第１楽章から第２楽章では区切りがあり、その効果についても同様に共有した。効果の確認については、既習事項を確認しながら、音楽を形作っている要素をもとに共有していた。最後に多楽章の曲の感想を共有し、学級全体が「第五番」の魅力を味わったことがわかる授業であった。

本題材では、全体をとらえたうえで音楽の特徴を追求し、作品全体を味わうことをねらいとしたと説明があった。授業者からは、本時では全体で考えを交流することを協働と捉え、深い学びにつなげることをねらい、敢えて個人の考えをＩＣＴで共有しなかったとのことだった。

指導助言者の北海道教育大学札幌校寺田貴雄教授からは、今回の鑑賞授業における以下の６つの視点をもとに、良かった点や改善点が示された。

①アプローチの新たな試み～全楽章を取り上げる　②何に注目して聴き取るかを明確化　③鑑賞の回数を重ねることで分析的に試聴　④映像を使用する意図を明確化　⑤知覚と感受を分け、結びつきを考察　⑥共通事項をもとにした知覚の共有化

本授業では、主体的な学びは実現できていたが、対話的な学びを入れていくことが生徒の深い学びにつながるという指導講評となった。

【表現・創作】第２学年

題材名「反復や変化を生かしてリズムパターンをつくろう」　指導者　下川町立下川中学校　教諭　熊澤 直行

１年次にアルトリコーダーで既習した曲である「オーラリー」を教材とし、一人一台 ICT 端末を用いてデジタルコンテンツを活用した創作の授業であった。３つのリズムをもとにデジタルコンテンツ上で組み合わせながら、16 小節のリズムパターンをつくった。そして、リズムの繰り返しや組み合わせ方を工夫した他の生徒の作品を全体で適宜聴き合い、自分の作品と比較したり、ペアで対話をしたりしながら作品を作り上げる授業展開であった。創作の条件が明確で、楽曲をすぐに音にして試すことができるので、曲想にふさわしいまとまりのあるリズムパターンを試行錯誤し創作する姿が印象的だった。

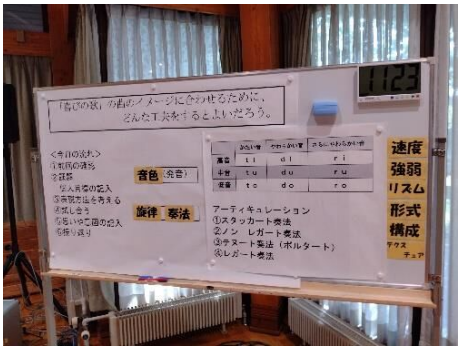
授業者からは、デジタルコンテンツを活用した創作の授業は効果的だが、個人での作業が多くなりがちなので、全体交流、ペア交流を取り入れた授業を展開した。また、曲想にふさわしいというところに焦点をあてて思いや意図を意識した授業展開には、授業者のファシリテーションが課題であるとあった。助言者から、今日の創作の授業は、音そのものをスタートにして創作し、複数のリズムパターンをつくることによって生徒がリズムについて学ぶことができた。また、デジタルコンテンツを使い、八分音符をもとにリズムパターンをつくることで、どの生徒にも容易に試すことができ、楽曲の旋律や音楽のまとまりにふさわしいリズムパターンの創作活動に取り組んでいたことを称賛する指導講評となった。

【表現・器楽】第１学年

題材名「アルト・リコーダーの演奏に親しもう」　指導者　剣淵町立剣淵中学校　教諭　大地 智之

『「喜びの歌」の曲のイメージに合わせるためにどんな工夫をするとよいだろう』と本時のめあてが提示され授業が始まった。はじめに「喜びの歌」の原曲であるベートーヴェン作曲交響曲第９番第４楽章から、管弦楽で演奏された部分と合唱で歌われる部分を聞いた。そこから「どうしたら近づけることができるか」について、生徒個々が「参考音源に近づけるために」「アルトリコーダーの音色を生かす」など個人のめあてを作り、発音や奏法、音の長さ、息の強さなどを手がかりに、生徒個々が取り組んでいた。次に４人ほどのグループで共有し、目指すイメージや工夫したことの理由など、根拠をもって説明して、意見を交換しながら演奏の工夫を重ねていた。大型モニターに提示された「助言するポイント」や、手元にあるワークシートの着眼点を随時確認しながら、個人の工夫（主体的），グループでの共有と助言（対話的）をくり返しながら、思いをもった演奏を目指すことで「深い学び」に近づいていく授業であった。

参観者からは、管弦楽や合唱曲のイメージをアルトリコーダーで表現しようというねらいには、難しさがあるが、反面効果や可能性もあるということ。基本的な技能が十分に習得されていることが思いや意図をもった表現を可能にすること。生徒がお互いに聞き合いフィードバックをすることで、自分の主張と他者との協調を両立させ、学びに向かう力を育てている、という意見が交換された。
最後に助言者から、思いやイメージの実現を目指した授業であったとの評価があった。こうした授業の実現のためには、指導計画の工夫が重要であること、ＩＣＴを活用しながら、対話でそれぞれの思いを深めることが大切であることが確認された。また、指導者が感受に関わる言葉のストックを増やすことで生徒の思いに対する語彙を補完し、思いを深め表現させたことが効果的であったと助言を得た。



◆記念講演◆　作曲家　合唱指揮者　松下　耕　氏

日　時　：　令和6年１０月１１日（金）　９：１０～１０：００
会　場　：　旭川市民文化会館

【演　題】　「子どもと合唱するということ」

これまでの人生を振り返りながら、今の子供たちとどのような合唱を共有しているのかについて合唱教育論をお話しいただきました。「教える義務」と「教えない勇気」とは。

◆記念演奏◆　主題「ここからはじまる・・・」

日 時　：　令和6年１０月１１日（金）　１０：２０～１１：３０
会 場　：　旭川市民文化会館

【演奏曲目】

１．中高吹奏楽ファンファーレ	「金管ファンファーレ１」	作曲：建部　知弘
２．幼稚園児合唱	「歌えバンバン」	作曲：山本　直純
３．小学生吹奏楽	「北の国から」	作曲：さだ　まさし　編曲：小島　里美
	「ジンギスカン」	作曲：Ｒ．シーゲル　編曲：小島　里美
４．小学生合唱	「Ｆｉｒｓｔ　Ｆｌｉｇｈｔ」	作詞・作曲：富澤　裕
５．中学生吹奏楽	「北の舞～もしもゴジラが北海道に上陸したら」	作編曲：藤田　崇文
６．中学生・高校生合同合唱	「ほらね」	作曲：まつしたこう作詞：いとうけいし
７．高校生吹奏楽	「天国の島」	作曲：佐藤　博昭
	「田園」	作曲：玉置　浩二　編曲：佐野　聡
８．出演者合同合唱奏	「あなたがどこかで」	作曲：玉置　浩二　作詞：松井　五郎
		編曲：安全地帯　合唱編曲：泉　修

【演奏団体】

・旭川志峯幼稚園
・旭川市立西御料地小学校、北海道教育大学附属旭川小学校、東川町立東川小学校
　旭川市立永山西小学校
・旭川市立忠和中学校、旭川市立永山中学校、旭川市立北門中学校
　旭川市立緑が丘中学校、旭川市立愛宕中学校、旭川市立東明中学校
　北海道教育大学附属旭川中学校、旭川市立東陽中学校、旭川市立神楽中学校
・旭川龍谷高等学校、旭川藤星高等学校、北海道旭川東高等学校
　北海道旭川西高等学校、北海道旭川商業等学校

Information

全日音研中学校部会ホームページもぜひご覧ください。　http://zennichionken-jhs.jp/